

# 中国語会話における「からかい」の相互行為的達成

## —身体接触に着目して—

葉穎怡(京都大学大学院生)

### 1. はじめに

日常生活において、親しい友人の間でからかったりからかわれたりすることがしばしば行われる。その際に、会話参加者はどのように「からかい」という相互行為を達成しているのだろうか。その問いに関して、からかいに関する従来の研究では、からかい発話に注目し、発話の繰り返しや感動詞の使用などの多様なやり方が明らかになっている(大津, 2004; 呉, 2020)。しかし、実際に会話参加者がからかいを行う際には、言語的資源だけではなく、笑いやジェスチャーなどの非言語的資源も利用している。そのような非言語的資源はよく言語的資源に伴って行われ、からかいの達成や理解において不可欠な部分であると考えられるが、非言語的資源に焦点を当てる研究はまだ少ない(例外として安井(2020)がある)。

そこで、本稿では、友人同士による多人数中国語会話データを用いて、からかいが行われている際によく見られる会話参加者が用いる非言語的資源の一つである、相手に触ってすぐ離れるような接触時間が短い身体接触に注目し、そのような身体接触がどのように行われ、からかいの活動においてどのような働きを持つのかを、会話分析の手法を用いて探究する。本研究で取り上げる2つのタイプ(「からかい相手への身体接触」と「からかい発話を宛てられていない参加者への身体接触」)はどちらも、「からかい発話の話し手(からかい行為を行う者)」が身体接触を行うことによってからかい行為を達成しているケースである。

### 2. 分析：からかい発話の話し手による身体接触の2つのパターン

#### 2.1 からかい相手への身体接触：遊びのメタメッセージとしての「引っ張る」「小突く」

からかい発話の話し手がからかい相手に向けて行う身体接触は、からかい相手へのマイナス評価や非難などのような否定的発話とともに産出され、瞬間的で何度も繰り返されるといった特徴が見られた。次は、断片1と断片2を見てみよう。

断片1は、日本に留学している中国語母語話者A, B, C三人の会話である。三人は異なる学部に所属するが、同じ日本語の授業を受けている親しい友人同士である。断片の直前に、西洋史専攻のAは自分がドイツの研究をするのであれば、ドイツ語を独学する必要があるという話をしていた上で、ある国について研究するのであれば、その国の言語を身につけるべきであると自分の意見を表明していた。Aの発話に対し、Cはドイツ語を勉強中のBを指しながら、“没事, 这不-这里<不就有个老师吗。(大丈夫, 先生はもうここにいるじゃん)”(04行目)と言い、Bにドイツ語を教えてもらうことをAに提案し

|   |   |
|---|---|
| <p>【断片1】</p> <p>01 A: 哎 真的, 我要是想研究德-德国的: 什么事情,<br/>(ねえ, ほんとうに, 私はドイツの何かを研究したいなら)</p> <p>02 A: 我还得 (0.5) 自学德语, 你知道吗.<br/>(私はまた (0.5) ドイツ語を独学する必要がある, you know?)</p> <p>03 A: 就你要研究哪个国家, 你要学会他们的语言.<br/>(どの国を研究するつもりでしたら, その国の言語を身につけるべき)</p> <p>04 C: +没事, *这不-这里&lt;+ 不就*有个老师吗.<br/>(大丈夫, 先生はもうここにいるじゃん)</p> <p>C_g: + -----to A----- +<br/>C_b: *--手でBを指す--*<br/>A_g: +----- to C -----&gt; 06行目</p> <p>05 (0.2)</p> <p>06 A: °切° (. )%*靠谱吧*++这.% +<br/>(ちえっ, 信頼できるのこいつ)</p> <p>A_b: *Bを二回触る*<br/>A_g: -Cに視線を向ける---++Bに視線を向ける+<br/>b_g: % Aに視線を向ける%</p> <p>07 B: [hahahahahahaha<br/>08 C: [hahahahahahahahaha</p> |  <p>09 A: +这 *靠谱得住吧*<br/>(こいつは頼れるの)<br/>A_b: *--Bを二回触る*<br/>A_f: +---- B&amp;Cに顔を向ける---&gt;<br/>(B&amp;CはAに視線を向けていない))</p> <p>10 (0.6)</p> <p>11 A: +这要是*能靠谱得住, 我还有什么*后顾之忧啊.<br/>(こいつが頼れるんだったら, 私には後顧の憂いとかはもうないでしょう)</p> <p>A_b: *--Bを三回触る----*<br/>A_f: +----- B&amp;Cに顔を向ける---&gt;<br/>(B&amp;CはAに視線を向けていない))</p> <p>12 (0.2)</p> <p>13 C: *hahahaha#haha*<br/>C_f: *Bに顔を向ける*<br/>B_f: #Cに顔を向ける--&gt; 14行目</p> <p>14 B: ¥是我菜# (0.8) 唉. ¥<br/>(私の実力なさすぎだ)<br/>B_f: Cに顔を向ける#</p> |
|---|---|

ている。Cの提案に対し、AがBへのからかいを産出しながら、Bを引っ張る動作を行っている(06行目)(図1)。

では、AからBへの身体接触により何が達成されているのだろうか。まずその身体接触が、Bが頼りにならないという否定的な態度を示す“靠谱吧(信頼できるの)”という発話に伴って産出されることである。またそのような身体接触で注目されたいのは、瞬間的で2回繰り返されているという点である。1回目の身体接触が注意を引くために用いられる(Goodwin & Cekaite, 2021)と言えるが、何度も繰り返すことは注意引き以外の特性をもつことを示唆する。重要なのは、なぜ身体接触を“靠谱吧(信頼できるの)”のような否定的な評価とともに行うのだろうか。そのような発話がかかなり挑発的であり、それに伴ってAがわざとBを引っ張る行動を繰り返すことは、Bの注意を会話に引き寄せるわけではなく、Bへの否定的な評価にはからかう意図が込められていることを示している。つまり、このような否定的な発話とともに行われる身体接触の中には、「これは遊びだ」というメタ・メッセージ(Bateson, 1972)があるため、からかいを達成する。その後、否定的な評価の対象Bが大笑いする(07行目)反応は、06行目の発話をからかいとして捉えたことを示している

また、このような身体接触とからかい発話の相互作用を通じ、触られる側からからかい発話への態度表明を求める志向が見られる。06行目のからかい発話と身体接触が行われた後、触られるBが単に笑って反応する。09行目(“靠谱住吧(頼れるの)”)と11行目(“要是能靠得住(頼れるんだったら)”)の否定的な評価に伴い、繰り返した身体接触が続いて行われている。そして、CもBに視線を向け、Bの反応を待つ(13行目)。14行目で、Bはやっと笑い声で、“是我菜, 唉(私の実力なさすぎだ, ai(嘆息))”と反応し、からかいの内容を認める態度を表明する。

断片2でも同じようなものが見られる。この断片は、友人関係である会話参加者四人A, B, C, Dが鍋を食べている場面である(Dは断片2中では話していない)。ここで注目されたい身体接触は、15行目でAがBをからかいながら行われているBを肘で突く動作である(図2)。断片の直前に、Bはラム肉を盛ってあるお皿を持っており、隣のAは箸を使ってラム肉を鍋に入れている。しかし、Aはなかなかラム肉をつかむことができない。Aのぎこちなさに対し、Bは舌打ちをしたり(01行目)、Aを睨みつけたりする(02-04行目)ことにより不満を示す。そして、Bは怒っているような強い口調で、“咋回事啊(何だよ)”(04行目)をAに対して産出する。

| 【断片2】  |   |
|--|---|
| 01 B: =TCH.<br>(舌打ち)   | 15 A: %=怎么, 怎么@骂人呢@ 你这小, @*小闺女*@ ((訛り)) ((笑顔))<br>(なんだ, なんて悪口を言うの. お前この小娘)                        |
| 02 +(0.9)<br>B_g: +Aを睨みつける→ 03   | A_b: * (二回で軽く)肘でBをどんと突く*  |
| 03 A: *hehe.*<br>A_b: *断片のより前から箸を使ってラム肉を掴む#<br>A_g: *Bに視線を向ける*                                       | A_g: @Bに視線を向け@ @ Bに視線を向け@<br>B_b: %——ラム肉を鍋に入れている → 断片の終わるまで<br>B_g: %——ずっとラム肉と鍋に集中している → 断片の終わるまで |
| 04 B: 咋回*事[啊]. ((訛りで発する))<br>(何だよ)<br>(ここまで標準語を使っていたが, 04行目で河南弁(方言)に変わる))<br>B_g: ((02行目から))Aを睨みつける* | 16 (0.3)<br>17 B: ehe[he].<br>A_g: *Bに視線を向ける → 24行目まで   |
| 05 A: [haha  | 18 C: 嗯. =<br>(ん) ((ソースを味わっている時, 発する声))   |
| 06 C: enhehe.<br>(Cが席に戻り画面に入る)   | 19 A: =*\$我学得[像吗\$*]<br>(私うまく真似たか.)<br>A_g: *(23行目から) Bに視線を向ける*                                   |
| 07 (0.1)(AがBにお箸を渡す)  | 20 C: [你们尝一下] 你们尝一下这个[酱].<br>(君たちはこのソースを食べてみて)  |
| 08 A: 咋回 sh-咋回事嘛. ((Bの訛りを真似る)) ((笑顔))<br>(なんだ-, 何なんだね) ((AがBにお箸を渡す))                                 | 21 B: [这不是骂人. ((笑顔))]<br>(これは悪口じゃない)  |
| 09 (0.6)   |   |
| 10 A: 咱, 咱*不知道啊* ((訛り))<br>(私, 私は分からないよ)<br>A_g: *Bに視線を向ける*<br>(11-14行目のCとDの発話を省略する)                 |   |

(図2 15行目\_AがBを突く)

その後、かなり遅れたタイミングでAが“怎么, 怎么骂人呢你这小, 小闺女 (なんだ, なんて悪口を言うの. お前この小娘)”(15行目)と発し、Bの04行目の“咋回事啊(何だよ)”という発話に反応する。“小闺女(小娘)”(15行目)を発する際に、肘をつくというAからBへの身体接触が繰り返して行われている。“小闺女(小娘)”に伴う身体接触は、“小闺女(小娘)”と呼ばれるBの注意を引くために用いられると捉えられる。しかし、断片1で論じる通り、2回以上繰り返した身体接触は注意引き以外の特性を持つと考えられる。それでは、2回以上繰り返した身体接触により、相互行為上何を達成されるのだろうか。“小闺女(小娘)”という呼び名に着目すると、そのような特定の成員カテゴリーがそのカテゴリーに属する人々に帰属される活動と規範的に結びつけられる(Sacks, 1972)ため、会話参加者は、“小闺女(小娘)”という成員カテゴリーが“骂人(悪口を言う)”という活動・述部と相応しくないことを認識すべきである。そのため、15行目の発話では、“小闺女(小娘)”として“骂人(悪口を言う)”という行為をすべきではない」というような本来結びついていない活動が行われている事態を指摘することで、Bを非難する行為を遂行している。その発話に伴って産出される繰り返した身体接触が、話し手の笑顔とともに非難発話行為には冗談めいた様子を与えると考えられる。このような非言語的資源の中には遊びのメタ・メッセージが含まれるため、相手への非難の強さをやわらげることができ、からかいを達成する。また、Bへの身体接触が行

われた後、鍋に肉を入れる作業に集中している B は、真面目な表情から笑顔に変え、“这不是骂人(これは悪口じゃない)”とからかいに対する否定的な態度を表明する。

## 2.2 からかい発話を宛てられていない参与者への身体接触：チームを組むための「叩く」「触る」

からかい発話の話し手がからかい発話を宛てられていない参与者への身体接触は、からかわれる側への挑発的な発話に伴って行われ、瞬間的で1回しか行われていないという特徴が見られる。次は断片3と断片4を見てみよう。

断片3は断片1と同じA, B, C三人の会話である。断片3の直前では、Cは今学期(当時)が終わったら全身を検査しに行くといった後、三人の間でその話が盛り上がっていた。それがきっかけで、Aは笑いながら、01行目の発話を始める。この断片において注目してほしいのは04行目のBが発話している際に、Aを叩くというBの動作である(図3)。

|   |  |  |
|---|--|--|
| <p><b>【断片3】</b></p> <p>01 A: ^¥听说 你:: 要 减: hh 二十斤¥hhh.hh^<br/>(あなたが二十斤痩せるつもりだと聞いた)</p> <p>A_g: ^-----to C-----^</p> <p>02 C: *hu^huhu^<br/>C_g: ^A から下に逸らす^<br/>B_g: *A から C へ→03 行目</p> <p>03 (0.6)*<br/>B_g: A から C へ*</p> <p>04 B: &amp;etch(^)*作证 啊&amp;^, ^〔二十*万〕^@ 呢=<br/>(証人になってよ, 二十万だよ)</p> <p>B_g: *-----to A-----* @-to C<br/>B_b: ^---A を叩く---^ ^C を指差す^ (図3)</p> <p>A_g: &amp;-----to B-----&amp;<br/>C_g: @B から逸らす</p> <p>05 A: ^[ang ]^<br/>A_b: ^---額&lt;---^</p> <p>06 C: =huhuhu=</p> | <p>07 A: =^作证^<br/>(証人になって)</p> <p>A_b: ^カメラのほうに手を向ける^ (図4)</p> <p>08 (0.6)</p> <p>09 B: ^作证^, *二十万*=<br/>(証人になって, 二十万)</p> <p>B_g: *--to C--*</p> <p>B_b: ^カメラのほうに手を向ける^ (図5)</p> <p>10 A: [作证<br/>(証人になって)</p> <p>11 C: =huhu[hu</p> <p>12 A: [啊, (不急)<br/>(まあ, 急ぎ必要はない)</p> <p>13 B: 一斤, 一万<br/>(一斤, 一万円)</p> |  <p>(図3.04行目BがAを叩く)</p>  <p>(図4.07行目Aが手をカメラに向ける)</p>  <p>(図5.09行目Bが手をカメラに向ける)</p> |
|---|--|--|

その身体接触はどのような連鎖環境に行われているのだろうか。まず01行目でAが笑いながら“听说你要减二十斤(あなたが二十斤(10キロ)痩せるつもりだと聞いた)”と、その情報について、Cの確認やさらなる説明を求めている。しかし、Aの確認に対し、Cは笑い出すものの、視線をAから逸らしてテーブルのほうに落とし(02行目)、何も応答しない。Cのダイエットの情報がBによるものであり、その時CはBと「来年の四月までに二十斤(10キロ)痩せないと、1斤につきBに1万円支払う」という約束をしたこともある。Cのそのような反応は、Bと交わした約束を履行しない回避の傾向が見られる。そのため、Cの回避に気づいたBは、Aに視線を向け、“作证啊(証人になってよ)”と言いながら、Aを叩く(04行目)。その発話と身体接触により、約束の受益者の(二十万をもらえる)Bから第三者のAに証人になってもらうことへの依頼が行われる。また、わざと証人に立てることは、Cを意地悪く追い詰め、Cの回避を阻止する挑発的な行為にも見られる。それに対するCの06行目の笑いから、Cはその挑発的な行為をからかいとして捉えていることを示す(牧, 2008)。さらに、BがAを叩くという身体接触が行われるタイミングを見てみよう。BはCの反応(02行目)を見た後、舌打ちをして、首をAのほうに回し始め、その同時にAもCからBに視線を移動させる。両者の視線が相手に向けられた直後、BからAへの身体接触が行われる。注意がすでに共有されていることから、04行目の身体接触は、第三者Aをからかわれる側Cへのからかい活動の参加フレーム(西阪, 2008)に誘い込み、一緒にCをからかう役割を果たしていると考えられる。それは、“作证啊(証人になってよ)”(04行目)という依頼発話の後、Aが“ang”と頷きながら依頼を受け入れるのみならず、カメラの方向にも手を向け、“作证(証人になって)”(07行目)と発することから証拠づけられる。カメラ、またはビデオを見るその場にはいない研究者に証人になってもらうことへの依頼は、04行目のBと同じCの回避を阻止する挑発的な行為とみられる。つまり、07行目でAがBと同じからかう側に入ったことが示される。さらに、BがAのカメラに手を向ける動作に倣い、“作证(証人になって)”(09行目)と発することも、AとB二人がからかう側のチームを組んでいることを示していると考えられる。

断片4も、断片3と同じく「Cのダイエットプラン」に関するからかい活動である。ここでは、AがBに向け、Cをからかう発話を産出しながら、Bを触る動作が観察された(14行目)(図6)。01行目で、Aは視線をCに向け、“见者有份吗? (見た人に必ず自分の取り分があるの)”と笑いながら、冗談めいた口調でCに質問することで、約束したお金の分け前を要求する。その要求に対し、13行目までCは何も承諾していない。しかし、AがCか

|   |  |
|---|--|
| <p><b>【断片4】</b></p> <p>01 A: *见者有份吗 hahahahahaha.hhhh<br/>A_g: *-----to C-----&gt;<br/>(見た人に必ず自分の取り分があるの)</p> <p>02 B: hahahahahaha<br/>…… (10行を省略)</p> <p>13 A: *¥哎呦看来以后得多找李华@出去吃吃饭, @<br/>(あら, どうやらこれからもっとCを外食に誘わなければならないようだね)</p> <p>A_g: *-----to B-----&gt;14 行目<br/>B_g: @-----to C-----@<br/>(Cは笑ってAとBの方向を見ている))</p> <p>14 A: @这不我^没有功劳也有苦劳呢¥*@<br/>(ほら私たどえ功劳を立てなくとも, 苦劳をなめてくるんだよ)</p> <p>A_g: -----to B-----*<br/>A_b: ^B を触る^ (図6)<br/>B_g: @-----to A-----@<br/>(Cは笑ってAとBの方向を見ている))</p> <p>15 B: ^hehehehe^<br/>B_b: ^手をAの腕に置く-18</p> <p>16 (0.4)</p> <p>17 A: hehehehe<br/>B_b: 手をAの腕に置く^</p> <p>18 B: 哎呀, 你们这立flag么不是<br/>(あら, あなたたちそれフラグが立つんじゃない?)</p> <p>19 A: =(是的啊)<br/>(そうよ)</p> <p>20 (0.1)</p> <p>21 C: 那不行, 你, 你要, 你要不是请我吃饭我都不出去。<br/>(それはダメ, あなた, あなたが, 私に食事を奢ってくれなかったら, 私は全然出かける)</p> <p>22 (1.7)</p> |  <p>(図6.14行目AがBを触る)</p> |
|---|--|

断片4も、断片3と同じく「Cのダイエットプラン」に関するからかい活動である。ここでは、AがBに向け、Cをからかう発話を産出しながら、Bを触る動作が観察された(14行目)(図6)。01行目で、Aは視線をCに向け、“见者有份吗? (見た人に必ず自分の取り分があるの)”と笑いながら、冗談めいた口調でCに質問することで、約束したお金の分け前を要求する。その要求に対し、13行目までCは何も承諾していない。しかし、AがCか

ら承諾を得たように，“哎呦看来以后得多找李华出去吃吃饭，这不我没有功劳也有苦劳呢(あら，どうやらこれからもっとCを外食に誘わなければならないようだね，ほら私たとえ功劳を立てなくとも，苦勞をなめてくるんだよ。)”(13-14行目)を発する。ここで注目したい身体接触は，14行目での“这不我(ほら私)”と同じタイミングで産出される。ここでの身体接触がBの注意を“这不我(ほら私)”の後の“没有功劳也有苦勞(功劳を立てなくとも，苦勞をなめてくる)”に引き寄せると考えられる。“没有功劳也有苦勞(功劳を立てなくとも，苦勞をなめてくる)”が俗語であり，「Cと約束したのがBであり，二十万円を得られることにBのほうが多大な功劳があったのに対し，Aが外食を誘うことによってCのダイエットプランを干渉する行為も少しはAも苦勞をしていること」を意味する。Cのダイエットプランへの意地悪な干渉を「苦勞」として描写することは，Cに対するからかいと考えられる。それは，Aの意地悪なアイディアの対象者Cが笑顔で聞いており，Bも大笑いをする(15行目)反応によって解釈可能である。また，第三者BにCのダイエットプランへの意地悪な干渉を「苦勞」として描写する行為に注意を向けさせたり，認めさせたりする身体接触は，Bをからかう側の枠組みに誘い込む身体的資源と考えられる。15行目での大笑いととも，Bが手をAの腕に置く。タッチを返すBの身体反応により，Aのからかう側の枠組みへの誘いが受け入れられたと考えられる。またBは“你们这立flag么不是(あなたたちそれフラグが立つんじゃない?)”(18行目)と発する。Cの二十斤(10キロ)を減らすダイエットプランを「立flag(フラグが立つ)」という皮肉めいた若者言葉で評価することも，BがAのからかう側の枠組みに参加したことを示している。

### 3. 結論

Li(2020)が焦点を当てた持続的な身体接触と異なり，本稿では，多人数会話におけるからかい活動の中でからかい側が行う瞬間的な身体接触に焦点を当てる。「からかい相手への身体接触」と「からかい発話を宛てられていない参加者への身体接触」という二つの場合に分け，異なる対象への身体接触がそれぞれどのように産出され，どのような相互行為上の働きを果たすのかを考察した。その結果を以下のようにまとめられる。

まず，「からかう側」から「からかわれる側」への身体接触は，瞬間的で何度も繰り返されるといった特徴が見られた。そのような身体接触が，よくからかわれる側へのマイナス評価や非難などのような否定的発話とともに為されることが観察された。その中には，否定的発話に含まれる攻撃性を抑えたり，からかう意図を込めたりする遊びのメタ・メッセージが含まれ，からかいの達成を促進することが可能となっていた。そして，瞬間的で繰り返されるといった特徴は，さらにはからかわれる側がからかみの発話への態度表明を求める重要な身体的資源となっていることが明らかになった。

一方で，「からかう側」から「第三者」への身体接触は，瞬間的で一回しか行われていないといった特徴が見られた。からかわれる側への挑発的な発話に伴って第三者を瞬時的に接触することにより，第三者をからかう側の参加フレームに引き入れる働きを有していたことを明らかにした。

**謝辞** 本稿の執筆にあたり，有益なコメントを頂いた横森大輔氏，馮佳誉氏，坂尾結衣氏，また，データを提供頂いた張麗氏，戎芸氏に深謝の意を表します。そして京都大学横森ゼミやイカロ研究会などのイベントで発表の機会を頂き，参加者の方々から貴重なご助言を頂きました。ここに感謝の意を表します。

### 参考文献

- 呉青青 (2020). 日本語会話における「からかい」の様相：「遊び」としての「からかい」の相互行為分析，九州大学大学院地球社会統合科学府博士論文。
- 牧亮太 (2008). からかい行動(teasing)に関する研究の動向と課題. 広島大学大学院教育学研究紀要. 第三部, 教育人間科学関連領域, 57, 269-276.
- 西阪仰 (2008). 分散する身体：エスノメソドロジ－的相互行為分析の展開 勁草書房。
- 大津友美 (2004). 親しい友人同士の会話におけるポジティブ・ポライトネス：「遊び」としての対立行動に注目して，社会言語科学, 6(2), 44-53.
- 安井永子 (2019). 笑いの対象に向けられる指さし：からかいにおける志向の分散と参加のフレームの組織化 安井永子・杉浦秀行・高梨克也(編) 指さしと相互行為 ひつじ書房, 123-157.
- Bateson, G. (1972). *Steps to an Ecology of Mind*, Ballantine Books, New York. (グレゴリー・ベイトソン[佐藤良明訳]『精神の生態学』, 思案社, 1990.)
- Cekaite, A., & Goodwin, M. H. (2021). Touch and social interaction. *Annual Review of Anthropology*, 50, 203-218.
- Li, X. (2020). Interpersonal touch in conversational joking. *Research on Language and Social Interaction*, 53(3), 357-379.
- Sacks, H. (1972). On the analyzability of stories by children. *Directions in Sociolinguistics: The Ethnography of Communication* (Gumperz, J., & Hymes, D., eds.), New York, Rinehart & Winston, pp. 325-345.